

## 水 稻 の 葉 先 枯 れ に つ い て

望 月 正 巳

Masami MOCHIZUKI : On the white tip symptom of the rice leaves

昭和54年7月12日に富山県射水郡小杉町の県立技術短期大学内水田のコシヒカリに葉先枯れが発生した。更に同短大内水田の越路早生にも発生を見た。この葉先枯れについて若干の調査を行ったので、その結果を報告する。

葉先枯れは出葉した葉身の先端が2.0~6.0cmに白変し、それが黄褐変してその部分が枯死するもので、心枯線虫による症状によく似ており(写真1)、この症状は7月から8月にかけて畦畔沿に多発した。コシヒカリでは40~50株に1株程度で、また株当りの発生本数は1本が普通であったが、稀に2~3本の場合も認められた。葉先枯れの発生葉位は止葉が1例、次葉が4例、第3葉が2例、第4葉以下は事例が零であり、止葉から第3葉までに集中していた。そして必ずと言ってもよいくらいに、発生葉より下位葉の葉身基部に白斑を伴っていた。また被害株3株について、被害茎の稈長を調べたがいずれの被害茎も夫々の株の中程度の稈長を示していた。葉先枯れの茎(穂孕期)をその基部から切り取り持ち帰り、心枯線虫の遊出調査を行ったところ、心枯線虫の遊出は全く無く、多数の原生動物即ちミズケムシ類と思われるものを確認した(写真2)。又出穂した穂についても同様の調査をしたが、上記と同一の結果を得た。一方健全茎では、比較的小数の原生動物を確認したのみであった。籾については目下調査実施中である。

以上のことから、この葉先枯れは心枯線虫によるものではなく、原生動物の茎内異常多発によって惹起された類似のものであったと思われる。



写真1 コシヒカリ葉上の葉先枯れ

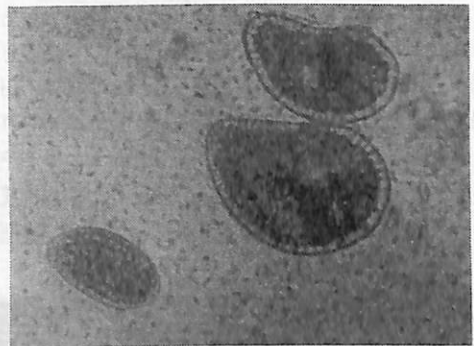


写真2 ミズケムシ類と思われる原生動物